

「障害者と自然災害に関するアンケート調査」

(平成31年3月)

近年の大雨等による自然災害の凄まじさと被害の甚大さには、測り知れないものがあります。地震、台風、大雨等の発生は防ぎようがありません。平成30年の漢字一文字が「災」であったことは、このことを如実に物語っていると思います。

東日本大震災から7年が経ちました。今、その教訓が活かされているかどうかも含めて日々の生活を振り返りながら、災害への備えを検証したいと思います。

自然災害の発生を可能な限り小さくし、障害者の生活を安全・安心なものとしたいと思い、今年度は「障害者と自然災害」のアンケートを実施しました。

調査概要

調査実施者 (公益社団法人) 東京都身体障害者団体連合会
東京都障害者社会参加推進センター

調査協力者 東京都身体障害者団体連合会地区団体及び東京都
障害者社会参加推進協議会構成団体等47団体

調査期間 平成30年11月22日～平成31年1月15日

調査方法 アンケート用紙を配布・回収

調査結果 アンケート送付数 144部
アンケート回答数 82部 (回収率57.0%)

摘要

自然災害 暴風, 豪雨, 豪雪, 洪水, 高潮, 地震, 津波, 噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害のこと。

ポイント 各項目の始めにその項目のポイントを載せた。ポイントで「～割」と示している母数はアンケート回答数の82人である。項目によっては人数で示している。

平成30年度障害者実態調査 「自然災害について考える」

I 集計の状況

調査数及び回答数（回収率）

調査数	回答数（回収率）
144	82（57.0%）

II 回答者の属性等

1 性別・居住地・年齢

（ポイント）

- ① 回答者の男女数はほぼ同数。
- ② 23区内居住者は23区外居住者の倍。
- ③ 年齢構成では70歳代が最も多く60歳以上が8割弱を占めている。

（1）性別

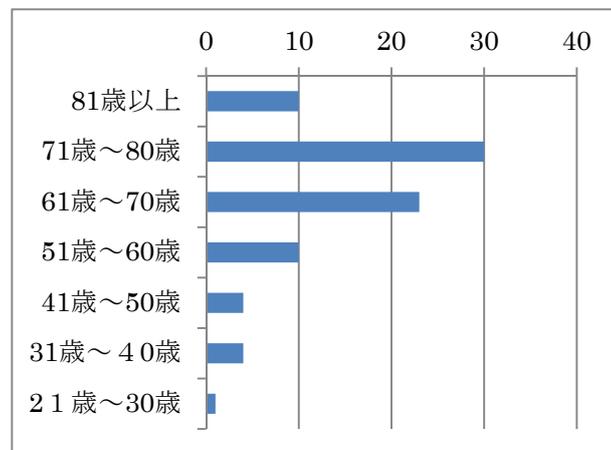
男性	42
女性	40
合計	82

（2）居住地

23区内	23区外	合計
55	27	82

（3）年齢

81歳以上	10
71歳～80歳	30
61歳～70歳	23
51歳～60歳	10
41歳～50歳	4
31歳～40歳	4
21歳～30歳	1
合計	82



2 障害内容

(ポイント)

- ① 障害では「身体障害」が9割を占めている。
- ② 障害等級では2級(度)以上が約7割を占めている。
- ③ 身体障害では肢体不自由が6割、視覚障害が2割であった。

(1) 障害について

身体障害	知的障害	精神障害	回答者
74	6	2	80名(重複2名)

(2) 障害等級

1級(1度)	2級(2度)	3級(3度)	4級～6級(4度)	回答者
26	27	14	13	80名

(3) 身体障害の種類

肢体不自由	視覚	聴覚	ぼうこう 直腸障害	その 他	回 答 者
45	16	6	1	7	71名(重複4名)

(その他：透析・音声言語機能喪失・体幹機能)

(4) 肢体不自由の方で使用している車いす・補助具について

(複数回答可)

手動	電動	補助杖・両松葉等	回答者
13	10	17	35名

Ⅲ 自然災害について

1 自然災害のイメージ等

(ポイント)

- ① 「自然災害で思い浮かべる」では 9 割が「地震」、8 割が「台風」、次いで「大雨・洪水・津波」の順。
- ② 実際に被害（物損）があった方は 1 割強であった。
- ③ 被害（物損）は屋根、畳、店の機械等がある。

(1) 「自然災害」と聞いてすぐに思い浮かべるもの

(複数回答可・80名回答)

地震	台風	大雨	洪水	津波
77	64	32	24	22

大雪	土砂崩れ	堤防決壊	液状化	その他
11	7	6	6	2

(2) 今までに地震台風等で被害（物損）を受けたことがある

(79名回答)

被害（物損）を受けたことがある	13
被害（物損）を受けたことがない	66

(3) 被害（物損）を受けた原因と被害内容

台風	屋根（家屋・テラス）・庭木・瓦・床上浸水・床下浸水
地震	部屋のものが落下し破損・家具の倒壊破損・家電の破損
大雨	店の機械・床上浸水・雨漏りで畳
大雪	屋根（ガレージ）

2 居住地が自然災害にあう可能性と安全度

(ポイント)

- ① 居住地で自然災害にあう可能性のあるのは、「地震・台風・大雨・洪水」の順であり、先の設問の「自然災害と聞いてすぐに思い浮かべる」の順と同じである。
- ② 「津波」の回答者7名のうち居住地の海拔を知っているのは2名。
- ③ 居住地の自然災害に対する安全度では、「安全・ある程度安全」が5割であった。

(1) 居住地域での自然災害にあう可能性

(複数回答可・回答者76名)

地震	67		大雪	9
台風	55		津波	7
大雨	42		液状化	5
洪水	13		土砂崩れ	3
堤防決壊	13		その他	2

(1-2) 「津波」の回答者と居住地の海拔

(回答者7名)

知っている	2
知らない	4
無回答	1

(2) 居住地域の自然災害に対する安全の程度 (回答者78名)

安全	ある程度安全	どちらとも言えない	危険	分からない
8	32	23	5	10

3 自然災害に対する防災訓練や事前の備え

(ポイント)

- ① 地域での防災訓練は「毎年または毎年ではないが実施」が 8 割は実施している。
- ② 防災訓練では「参加・ときどき参加」が 5 割であるが、「参加していない」人数が 27 人と最も多い。
- ③ 防災グッズ等直ぐに持ち出せる物として、「懐中電灯・携帯ラジオ・水（ペットボトル）・携帯電話等・タオル」がある。
- ④ 防災グッズの入れ替え見直を実施しているのは 4 割。
- ⑤ 家具の固定等安全対策をしている者は 5 割。
- ⑥ 水・食料の備蓄のうち
 - ・水と食料とも備蓄している 46 名
 - ・水と食料を 3 日以上備蓄している 24 名

(1) 「居住している地域」での防災訓練の実施 (回答者 81 名)

1 毎年実施している	51
2 毎年ではないが実施している	13
3 まったく実施していない	7
4 分からない	5
5 以前は実施していたが今は実施していない	4
6 その他	1

(2) 防災訓練への参加状況 (回答者 69 名)

1 参加していない	27
2 ときどき参加している	21
3 参加している	19
4 その他	2

(回答者からのコメント)

- ・車椅子障害者で自分以外の参加者はいない
- ・参加しているが障害者への対応ができていない
- ・第一避難所は坂の上なので自力では坂を登れない

(3) 「防災グッズとしてすぐに持ち出せる」ようにしている物

(複数回答可・回答者76名)

1 懐中電灯	57
2 携帯ラジオ(情報収集)	41
3 水(ペットボトル)	40
4 携帯電話・スマートフォン	39
5 タオル・軍手	35
6 常備薬類	28
7 雨合羽(レインコート)・衣類	23
8 スニーカーなどの靴	22
9 ヘルメット	9
10 その他	10

(その他：財布・食料)

(4) 防災グッズの見直し・入れ替え

(回答者76名)

1 している	34	28	不定期
		6	数カ月ごと・季節ごと
2 していない	42		

(5) 携帯電話やスマートフォンをすぐ手にすることができるか

(回答者74名)

1 すぐ手に持つことができるように側に置いている	54
2 すぐに手に持つようにはしていない	14
3 携帯電話・スマートフォンは持っていない	6

(6) 自宅内での家具などの固定 (複数回答可・回答者65名)

1 タンス・食器戸棚・本箱・テレビなどの固定	41
2 消火器の用意	36
3 窓ガラスの飛散防止フィルム	11
4 何もしていない	10

(7) 復旧するまで自活できるように備えている水・食料等

(複数回答可・回答者75名)

1 水 (1人1日3リットル)	62
2 食料(日分)	53
3 懐中電灯等のあかり	52
4 電池	49
5 携帯電話用充電器	27
6 簡易トイレ	26
6 卓上コンロ	26
8 その他	6

- * (その他：下着・古着・トイレットペーパー・薬・紙パンツ)
・水と食料とも備蓄している者 46名
・水と食料を3日以上備蓄している者 24名

4 自然災害時の家族との連絡・連携

(ポイント)

- ① 「避難所の場所と避難経路」と「お互いの連絡方法」を決めているのは3割。
- ② 「家族の安否確認方法」では「携帯・スマートフォンを使う」が7割、「ケータイ災害用伝言板サービス」、「171の災害用伝言ダイヤル」の順と続く。
- ③ 「在宅避難」か「避難所避難」では、「3日程度自宅避難しその後の状況で避難所避難」が6割、「避難所のプライバシーが整備されたら避難所避難」、「自宅避難しかない」の回答もある。

(1) 自然災害について家族の話し合い(複数回答可・回答者65名)

1 避難所の場所と避難所までの経路	25
2 お互いの連絡方法	23
3 家族が落ち合う場所を決めている	18
4 家族の安否確認方法	16
5 避難の方法	11
6 災害発生したときの役割分担	3
7 その他	12

- * (その他：一人暮らし)

(2) 家族の安否確認の方法 (複数回答可・回答者73名)

1 携帯・スマートフォンを使う	58
2 ケータイ災害用伝言板サービスを使う	13
3 171の災害用伝言ダイヤルを使う	12
4 遠方の親戚・知人を中継役に決めてそこに連絡する	10
5 公衆電話を使う	5
6 その他	3

(3) 「在宅での避難」にするか「避難所に避難」するか
(複数回答可・回答者75名)

1 3日間程度なら在宅で自活できる。 その後の状況によって避難所に行く。	48
2 プライバシー等から避難所での生活は厳しい。 その配慮が整備されたら避難所に行く	22
3 道路事情等で避難所に一人で行くことが困難。 介護者がきてから避難所に行く	18
4 介護者がいないと自力では動けない。 介護者がきてから避難所に行く。	15
5 その他	4

(その他)

- ・避難所の生活はできないので自宅にいる。
- ・障害から自力で避難所には行けないので自宅にいる
- ・自宅が一番安全だから。

IV 東日本大震災の振り返り

(1) 東日本大震災の経験とその後の防災意識 (回答者79名)

1	高まった	53
2	どちらともいえない	15
3	変わらない	5
	防災対策をしていなかったし今もしていない	
	防災対策をしていたから	3
4	その他	3

(2) 具体的な被害 (複数回答可・回答者42名)

1	けがをした	0
2	自宅の食器棚などが倒れた	7
3	ガラス窓とか家屋に損害があった	5
4	その他	31

(その他)

- ・玄関がふさがれ出られなくなった。
- ・外に置いてある鉢植えが倒れた。
- ・書類棚が倒れ本・書類等が全部落ちた。
- ・電話・ガラス食器が落ちた。
- ・エレベーターが一日使えなかった。
- ・胃ろう用の注入用ポールが倒れてきた。
- ・勤務先のエレベーターが止まり帰宅できなかった。
- ・屋根瓦がずれて雨漏りするようになった。外壁にひびが入った
- ・交通機関の関係で帰宅できなく勤務先で泊まるしかなかった。

(3) 東日本大震災発生時に居た場所 (回答者77名)

1	自宅	31
2	勤務先	18
3	道路を歩行・車いすで移動中	3
4	電車・バス・車等の交通機関を使っていた	2
5	商店街等ビルの中など	1
6	エレベーターの中	0
7	その他	22

(その他)

- ・福祉施設（デイサービス・障害者スポーツセンター）
- ・公共施設（福祉会館・教育会館）
- ・病院、劇場、友人宅、旅先の旅館

(4)東日本大震災の時に取った行動（複数回答可・回答者77名）

1 ビルの中なので安全と思い揺れがおさまるのを待った	24
2 ガスなどの火を消した	14
3 テーブルの下にもぐった	9
4 「いつもの揺れでそのうちおさまる」と思い特に何もしなかった	8
5 道路を歩行・車いすで移動中。安全な場所へ移動した	4
5 頭を座布団などで防護した	4
7 車を運転中だったので路肩に寄せた	2
8 電車・バス・タクシー等交通機関を使っていたのでそのまま乗っていた	1
9 その他	18

(その他)

- ・その場で座っていた
- ・タンスの上の物が落下しないように押さえた
- ・テレビを押さえた
- ・揺れがおさまったところで玄関をあけた
- ・台所、出口の戸を開けた
- ・揺れがおさまるのを待ち来院者を誘導し安全確保をした
- ・劇場の人の誘導に従い外に出た
- ・外に出て物が落ちない場所にいた
- ・区の避難所に行った

(5) 東日本大震災の教訓について

- ①「これがあったので大いに助かった」というもの
- ・家具が家に作り付けだったので倒れることなく助かった
 - ・ラジオとテレビがあり情報不足ではあったが役に立った
 - ・段ボールがあり床に敷いて体を休めることができた
 - ・窓際に物を置いていないので脱出は可能と思った

- ・タンスや食器戸棚を固定していたのがよかった
- ・寒い時期だったので携帯用カイロが役に立った
- ・公衆電話が通じ家族に連絡できた
- ・ある程度の食料があり助かった
- ・パソコンがあったので状況がわかった

② 「あれがあれば良かったのに」というもの

- ・コンビニのパンなど食料が売り切れたから缶詰などを備蓄しておけばよかった
- ・ネットスーパーにも近くのスーパーにも行けなかったので買い物支援する体制
- ・かばんにチョコレートやアメがあればよかった
- ・駅の放送などの情報の文字表示が必要
- ・携帯電話が災害時でも使えること
- ・スマートフォンの情報
- ・ラジオ・テレビ
- ・携帯用充電器
- ・避難はしご
- ・震災の知識

③ 計画停電が約2週間実施されたために実生活で「大いに困ったこと」

- ・乾電池・ローソクなどの照明する物がなくて困った
- ・計画停電の放送が聞き取れなかった
- ・計画停電の実施表が配られなかった
- ・エレベーターが使えなくて困った
- ・計画停電では冷蔵庫が心配だった
- ・医院が休診になった

V 自由意見

- * 避難所にいけないで家で孤立している人にも目を向けてほしい。
「旗」を家の前に出して SOS を発信し旗の色で（例えば水が必要な時は白い旗など）必要な物資や支援を伝えるようにするのはどうか
- * 災害が発生したら誰も助けてくれないと思うし道路の状況では車いすで避難所に自力で行けない
- * 自治体で薬や食品等の防災セットを配布あるいは安く購入できるようにしてほしい
- * 取材ヘリコプターが多数飛び騒音等がひどいので不要な取材ヘリコプターは自粛してほしい
- * 足が悪いし齢でもあり骨折したら終わりなので住み慣れた家にいるのが一番良い
- * 東京都障害者福祉会館に「海拔の表示」と津波の時の「避難場所」を明示してほしい
- * 障害者には自宅が一番安全だが外出先で災害にあったらそのときはそのとき
- * 東日本大震災後に東京都が発行した「東京防災」が役立っている
- * 行政に災害時の障害者対応を聞いたが「自助努力」といわれた
- * 地域の人がどこに障害者が住んでいるか分かってほしい
- * 停電でエレベーターが止まり車椅子を自宅に運ぶのが大変だ
- * 交通機関や電車内の放送などに文字表示での案内が必要
- * トイレが心配で全てのコンビニに多目的トイレの設置を
- * 災害弱者の障害者トイレなどについて何の対策もない
- * 医療的ケアが必要なので電気がないと命にかかわる
- * 自宅はオール電化なので停電が続くと何もできない
- * シルバーカーがないと動けないので自宅待機する
- * 障害者トイレの充実と快適に過ごせる布団の用意
- * 思ったより障害者はほったらかしにされている
- * 災害に対応するため障害者を対象とした研修
- * 胃ろうの人にアルファ米は注入できない
- * この調査をやりもっと考えて実行していく
- * 災害時に対応できるボランティアの育成
- * 障害者の福祉避難所を増やしてほしい
- * 地域全体での防災の取り組みが必要
- * 何よりも食べるものが必要